

日本看護歴史学会

會報

日本看護歴史学会
第 11 号
1991年10月31日

濃尾大地震の

災害救護から百年

吉川 龍子

今年の日本看護歴史学会第五回大会は、八月二四・二五日に国立名古屋病院講堂において開催された。今年、名古屋を開催地としたことは、看護歴史の上からみても意義があったといえよう。

それは、愛知・岐阜両県下を中心に甚大な被害を生じた濃尾大地震の際に、教育を受けた専門看護婦が最初の救護活動を行なっただけで、百年目にあたるからである。

「百雷の頭上に墜落せしと思ふ間もなく劇烈な震動をおこし、瓦飛び屋倒れ、地裂け井涸れ」と、記録されている。(『濃尾震誌』) この大地震(マグニチュード8)は百年前の一八九一年(明治二四)一〇月二八日午前六時三八分に発

生し、死者七二三名、傷者一万七七五名、家屋全壊一四万二七七戸という大被害を生んだ。わが国の内陸地震としては最大のものである(『理科年表』)。

災害発生後直ちに地元の医師らによる救護が始まったが、被害甚大のため人手も医療品も不足し、惨状を増すばかりであった。

そこで愛知県知事の要請に応じ、翌二九日夜には東京の日本赤十字社病院から救護班が出発、一昼夜かかって三〇日夜に名古屋に到着し、三一日から愛知県下の仮病院で救護を開始した。三〇日朝出発の別班も、一月一日に岐阜県下で救護活動を始め、その後も救護班の派遣が続いた。

関東地域からは、東京慈恵医院などの各病院、東京婦人矯風会など、関西からも京都の同志社病院などの看護婦が派遣された。

日本において看護婦の養成教育が開始されてから、まだ間もないころのことである。日本赤十字社病院派遣看護婦二〇名のうち、一〇名が同じ月に学業を終えたばかりの第一期生であったように、教育を受けた看護婦の数は実際には少なかった。しかしそのきびしい状況下で、看護婦たちは文字通り不眠不休の業務に従事し、多くの人命を救った。

震災後数日を経て救護所に運ばれてきた頭部裂傷のある患者は、「其凝血毛髮塵埃ト共ニ乾燥シ硬固ナルコト板ノ如ク一タヒ毛髮ヲ去レハ腐敗性ノ貯膿血液ト共ニ流出シ或ハ内ニ蛆虫ヲ充タスアリ」(『日本赤十字社史稿』)というありさまであった。

この救護活動に加わった看護婦の縁故者の話では、のちの戦時救護よりも濃尾大地震救護の体験の方が、本人の記憶の中に印象強く焼きついていたという。

稿もようの筒袖の和服に白エプロンと白帽姿の看護婦の活動ぶりが、写真にも残されている。当時の人々は、看護婦という職

業の存在さえ殆んど知らなかったから、彼女らの献身的な活動を目のあたりにして、「女の先生」とあがめ、あたかも医博士のごとくに尊敬した(『女学雑誌』第二九九号)。

看護婦による災害救護活動はその後三陸津波(一八九六年)、関東大震災(一九二三年)をはじめ数多く行なわれ、現在では外国での大災害の際にも派遣されて、国際救援の実をあげている。

災害救護を支えている看護婦の活動は、あまり報道されないのが、一般の人には知られていない。先日の航空ジャンボ機墜落事故(一九八五年)でも、生存者四名の報に医師と共に看護婦がヘリコプターから現場に降下して、応急処置を行ない、その生命を救ったのに、社会には知られなかった。

看護歴史の上で、看護婦の救護活動といえば戦時救護にだけ目を向けがちであるが、実際の活動量からみれば、災害救護の方がはるかに多いのである。

地震をはじめ津波、台風、噴火などの災害が多く、その度に死傷者を出してきた日本災害史の中の、百年におよぶ看護婦の災害救護の実績を、この機会に改めて見直すべきであろう。

第五回総会報告

代表幹事 亀山美知子

去る八月二四日午後四時より、日本看護歴史学会第五回総会が国立名古屋病院講堂で開催されました。以下はその要旨です。

一、一九九〇年度活動報告 すでに研究者の質の向上をめざしてきたが、尚一層の努力を求め、本学会報は会員との意志の疎通をはかるものであるが、事情によりその発行が大幅に遅れた。また機関誌も執筆者の都合で発行が遅れた。合わせて謝罪する。

一、本年度は、昨年の総会で了承を得たとおり、保健婦50年記念事業の内容を幹事会で決定し、本大会を記念大会とするともに記念テレカを作製した。

一、本会は年会費三千円で運営してきたが、最近、印刷費の高騰などにより経営が困難となっている。そのため総会の場で次年度より四千円にすることを提案し、可決された。これに伴い、本学会則第六条の中の「年会費三〇〇〇円」とあるのを本年八月二五日付で「年会費四〇〇〇円」と改正された。今後、会の充実に鋭意努力したい。

日本看護歴史学会 1990年度会計報告

収入の部 (単位 円)

項目	予算額	決算額	差引き額
前年度繰り越し金	306,783	306,783	0
会費	450,000	480,000 88会費 6人 89会費 32人 90会費 89人 (内新規 16人) 91会費 32人 92会費 1人 計 160×3000	30,000
寄付金その他の収入	10,000	19,342 会誌売上 14,500 利子 4,842	9,342
合計	766,783	806,125	39,342

支出の部 (単位 円)

項目	予算額	決算額	差引き額
事務経費	80,000	85,682	▲5,682
印刷費	(20,000)	(4,635)	
通信費	(40,000)		
事務用品費	(20,000)		
幹事開催費	100,000	55,000	45,000
出版費	300,000	79,310	220,690
会報発行費	(120,000)	(79,310)	
学会誌発行費	(180,000)	内訳 8号 27,810 9号 20,600 10号 30,900 (0)	
会員名簿費	0	1回/3年	0
総会費	50,000	38,588	11,412
分科会費	20,000	18,975	1,025
予備費	216,783	180,250 (学会誌3号)	36,533
合計	766,783	457,805	308,978

次年度への繰り越し額

実収入額 766,783円 - 実支出額 457,805円
= 308,978円

日本看護歴史学会 1991年度予算

収入の部 (単位 円)

項目	予算額	摘要	前年度決算額
前年度繰り越し金	308,978		306,783
会費	450,000	150×3,000	480,000
寄付金その他の収入	10,000		19,342
合計	768,978		806,125

収入の部 (単位 円)

項目	予算額	摘要	前年度決算額
事務経費	120,000		85,682
印刷費	(20,000)		(4,635)
通信費			
事務用品費	(100,000)		(81,047)
幹事開催費	100,000		55,000
出版費	280,000		79,310
会報発行費	(100,000)	年3回分	(79,310)
学会誌発行費	(180,000)	年1回	(0)
会員名簿費	0	1回/3年	0
総会費	50,000		38,588
分科会費	20,000		18,975
予備費	198,978	前年度学会誌発行費 (18万円) 未執行分を含む	180,250
合計	768,978		457,805

